

令和6年度 研究概要

<p>所属名</p> <p>カリキュラムセンター</p>	<p>研究会議名</p> <p>高校教育研究会議</p>
<p>研究主題</p>	<p>各教科における、「あいだのいちまい®」を取り入れた授業デザイン —授業に意欲的に取り組むことができる生徒の育成を目指して—</p>
<p>資質・能力 育成を目指す</p>	<p>授業に意欲的に取り組む</p>
<p>研究内容</p>	<p>令和3年に『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』の中で、「21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）」（文部科学省・厚生労働省）の、「楽しいと思える授業がたくさんある」という質問に対する肯定的な回答が、特に高等学校で低い結果となっており、高校生の学校生活の満足度や学習意欲の低下が指摘されている。</p> <p>総合教育センターの研究主題「自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成」の実現に向けて、高等学校における教育活動で多くの時間を費やす授業において、生徒を中心に据え、生徒が授業に対して意欲的になることができるような授業改善は必須である。</p> <p>高等学校では、現在でも授業改善の取組が行われているが、高等学校の特徴として教科が細かく科目に分かれていることもあり、教師の個人の取組に委ねられていることが多い。昨年度の研究「あいだのいちまい」の実践により、生徒の思考プロセスを可視化し、生徒が考えを授業の中心に据え、それを教師が価値付けすることで、生徒が授業に対して意欲的になれることが明らかになった。また、この研究により教科・課程・立場等によらず共通理解を図ることができ、協議することが可能となり、授業改善につながることを確認できた。</p> <p>このことから本研究会議では、各教科の全体の授業改善への取組として、検討段階から「あいだのいちまい」を取り入れた授業デザインすることで、生徒が授業に対して意欲的に取り組むことができる考えた。「あいだのいちまい」の記述、事前事後の生徒アンケートから生徒の学習意欲の向上について検証していく。</p>